

News Release

「就職氷河期世代に関する意識調査」結果 世帯の貯蓄・投資の総額は300万円未満が5割、2割が投資経験なし

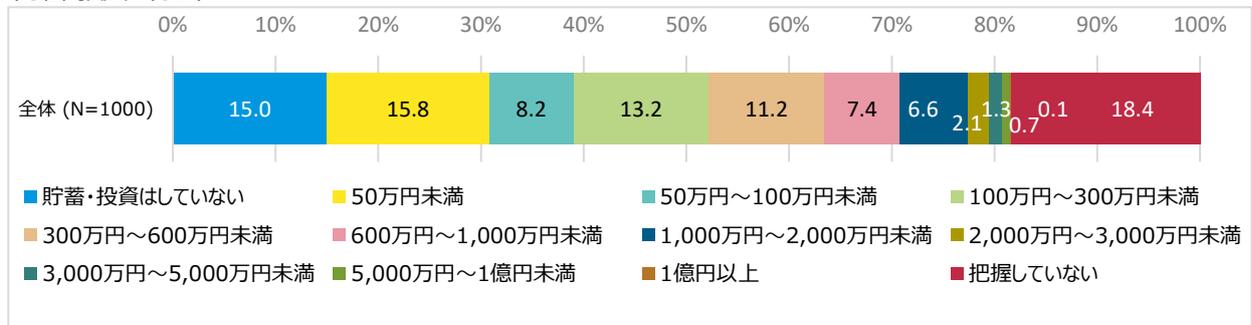
日本FP協会(所在地 東京都港区、理事長 白根壽晴)は、2023年4月24日～4月26日の3日間、就職氷河期世代の中心層かつ個人年収500万円未満である全国の38歳から46歳の働く男女1,000人を対象にインターネット調査を実施し、集計結果を公開しました(調査協力会社 株式会社日経リサーチ)。

雇用形態別(正規・非正規)の実態のほか、金融に関する意識・習慣・行動が反映された調査結果となっています。

調査結果の概要

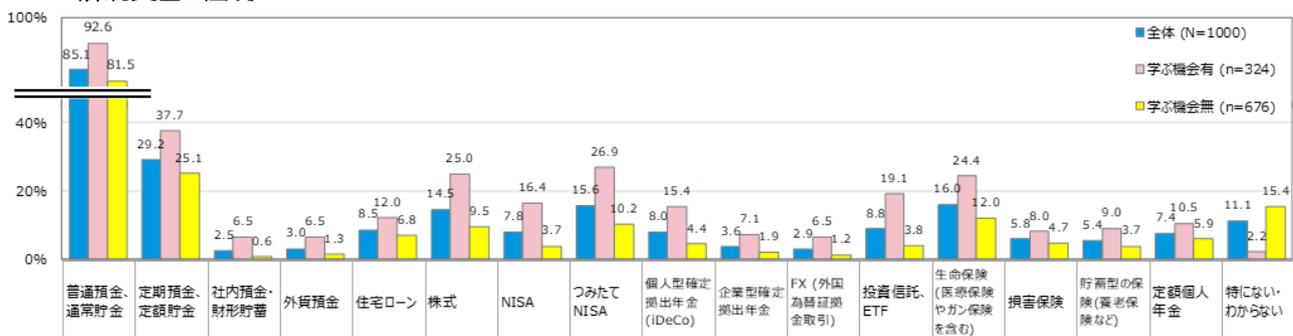
- ◆ 世帯の貯蓄・投資の総額は、「貯蓄・投資はしていない」、「50万円未満」がそれぞれ15%と回答割合が高く、300万円未満では5割を占める。

〈貯蓄・投資の総額〉



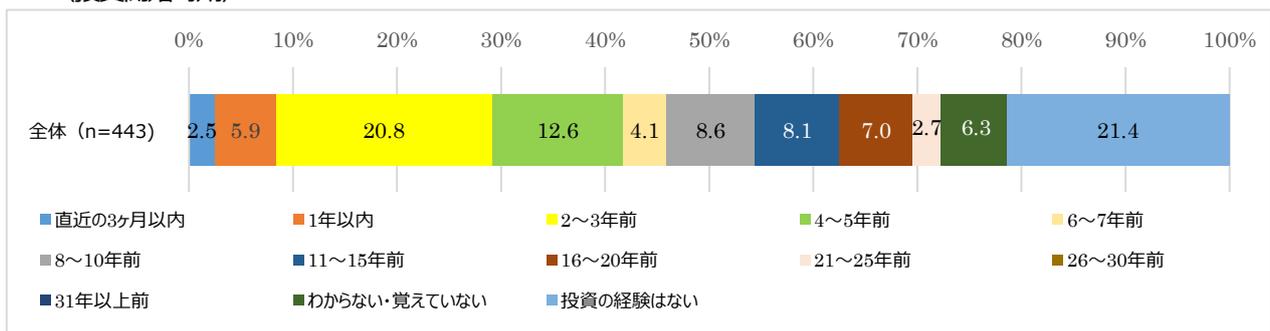
- ◆ 保有資産は、8割が「普通預金、通常貯金(85.1%)」を保有しており、現預金志向が高い。また、資産運用や投資、ライフプランを学ぶ機会があった層は投資している割合が高い。

〈保有資産の種類〉



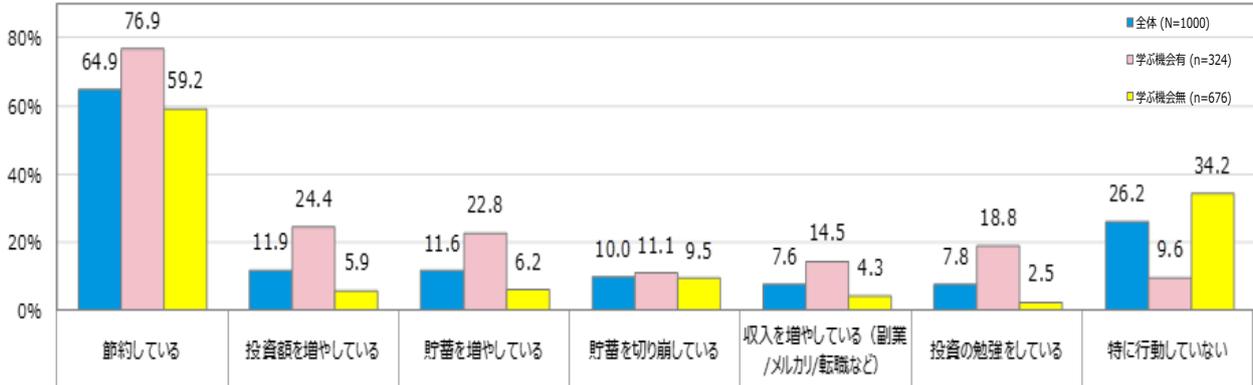
- ◆ 投資開始時期は「2～3年前(20.8%)」が最多。一方、「投資の経験がない」が2割存在している。

〈投資開始時期〉



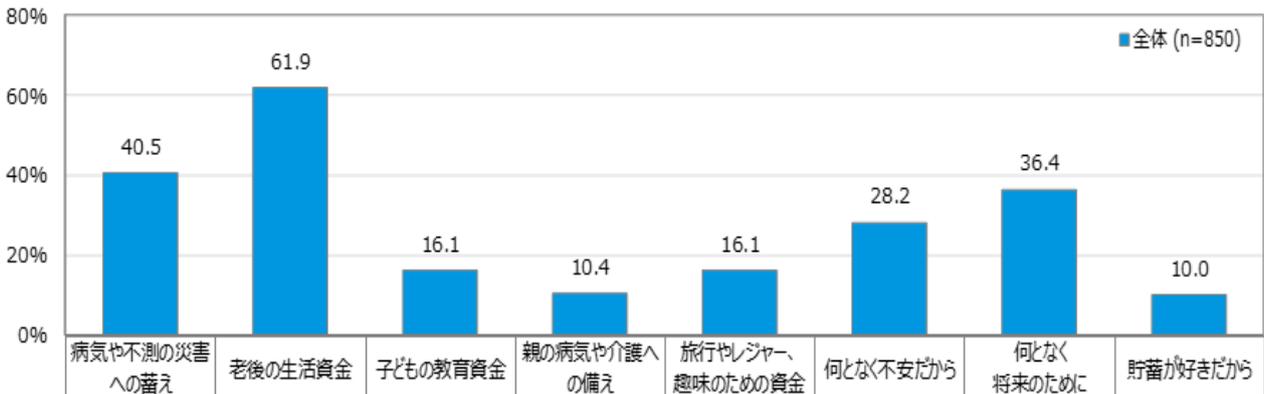
- ◆ 現在の投資・貯金の行動について、「節約している」、「投資額を増やしている」、「貯蓄を増やしている」、「収入を増やしている」、「投資の勉強をしている」等の積極的な行動は、資産運用や投資、ライフプランを学ぶ機会があった層が高く、学ぶ機会がなかった層より 10pt-20pt 上回っており、学ぶ機会の有無が行動を変化させていることがうかがえる。

〈現在の投資・貯金の行動〉



- ◆ 貯蓄・投資の目的は、「病気や不測の災害への備え (40.5%)」、「老後の生活資金 (61.9%)」、「何となく不安だから (28.2%)」、「何となく将来のために (36.4%)」の回答割合が高い。

〈貯蓄・投資の目的〉



- ◆ リタイア後のセカンドライフへの考えは、リタイア後の生活費の不足や、自分や親族の介護が必要になった場合を不安視する傾向がある。

〈リタイア後のセカンドライフについての考え〉

	全体 (N=1000) (%)			
	はい	どちらかといえばはい	どちらかといえばいいえ	いいえ
リタイア後の生活費が不足するのではないかと不安に思う	50.1	32.8	11.0	6.1
多少無理をしても、リタイア後のために貯蓄や年金で蓄えようと思う	21.3	44.7	25.4	8.6
両親など家族や自分自身に介護が必要になったときのお金が心配	37.3	38.1	15.0	9.6
リタイア後の生活資金は、貯蓄を取り崩すよりも個人年金として受け取る方が好ましい	18.1	45.5	24.6	11.8
定年などの節目が来ても、収入のために働き続けたい (配偶者に働き続けてほしい)	21.6	42.6	22.0	13.8
現時点で子どもに残せる資産はない	42.1	26.9	20.9	10.1

【別紙】

＜調査概要＞

- ・調査タイトル: 就職氷河期世代に関する意識調査
- ・調査方法: インターネット調査(日経リサーチ提携先インターネットパネルを利用)
- ・調査対象: 38歳～46歳の有職者で個人年収が税込500万円未満の方
超氷河期世代に該当する可能性の高い層として、上記の年齢・年収を設定。
- ・調査期間: 2023年4月24日～4月26日
- ・回収数: 1,000サンプル
- ・留意事項: 本調査における「就職氷河期世代」「氷河期世代」とは本調査対象者を指しており、1985年～1977年に生まれ、調査時点で38歳～46歳の人を超氷河期世代に該当する可能性の高い層として設定している。
- ・調査協力会社: 株式会社日経リサーチ

＜回答者属性＞

・職業

項目	回答者数	民間企業にお勤め (経営管理者・社員・嘱託・派遣など)	官公庁、自治体など 公的機関にお勤め (管理者・職員・嘱託・派遣など)
全体	(N=1000)	94.9	5.1

※個人経営の経営主、自営業、自由業、家事手伝い、農林漁業、パート・アルバイト・内職、を含めない

・結婚状況

項目	回答者数	未婚	既婚 (事実婚含む)	離別・死別含む
全体	(N=1000)	61.0	29.8	9.2

・雇用形態

項目	回答者数	正社員	契約社員	嘱託社員	派遣社員
全体	(N=1000)	50.0	23.8	1.5	24.7

※役員・経営者、を含めない

・個人年収

項目	回答者数	300万円～ 500万円未満	100万円～ 300万円未満	100万円未満
全体	(N=1000)	48.3	48.6	3.1

・世帯年収

項目	回答者数	100万円未満	100万円～ 300万円未満	300万円～ 500万円未満	500万円～ 700万円未満	700万円～ 1千万円未満	1千万円～ 1500万円未満	1500万円～ 2千万円未満	2千万円～ 3千万円未満	3千万円以上
全体	(N=1000)	1.4	21.5	40.5	19.3	13.4	2.9	0.7	0.2	0.1

・住宅状況

項目	回答者数	持ち家(一戸建て) ※	持ち家(集合住宅) ※	持ち家(店舗付き住宅) ※	民間借家(一戸建て)	民間借家(集合住宅)	(公社・公団・公営) 公共賃貸住宅	(社宅・寮・官公舎) 給与住宅	間借	その他
全体	(N=1000)	44.0	11.5	0.7	1.9	36.2	3.8	1.3	0.2	0.4

※親、兄弟、子どもの持ち家を含む

・同居者の状況

項目	回答者数	一人暮らし (同居している人はいない)	配偶者・パートナー	子ども	配偶者・パートナー の親	兄弟	親戚	友人	その他
全体	(N=1000)	31.0	30.6	27.6	21.5	9.8	1.4	0.1	13.3

＜分析軸について＞

本レポートでは、雇用形態（正規・非正規）以外に下記2つの分析軸を用いて、分析している。

・金融を学ぶ機会の有無

Q. これまで資産運用や投資、ライフプランニングについて考えるきっかけや学ぶ機会はどうなのがありましたか

No	項目	グループ	%
1	職場での研修やセミナー（企業年金制度、DCの説明など）	学ぶ機会があった層	32.4
2	上記以外のセミナー（金融機関主催など）		
3	専門家への相談		
4	自分でWEB（SNSやブログ）から情報を得る		
5	自分でWEB（その他金融系サイト）から情報を得る		
6	自分で書籍・雑誌・新聞から情報を得る		
7	親族から		
8	友人や知人から		
9	仕事の業務で必要		
10	学校の授業や課外活動		
11	その他		
12	学ぶ機会はなかった	学ぶ機会がなかった層	67.6

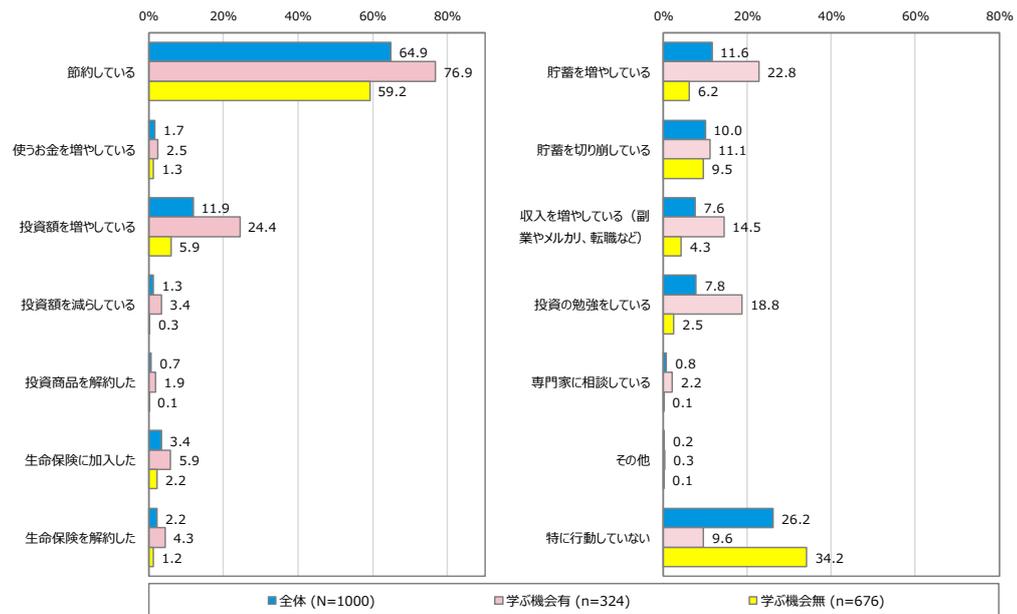
・金融の意識・習慣

Q. 以下について、あなたご自身にあてはまると感じるものを、それぞれ「はい」～「いいえ」でお答えください。

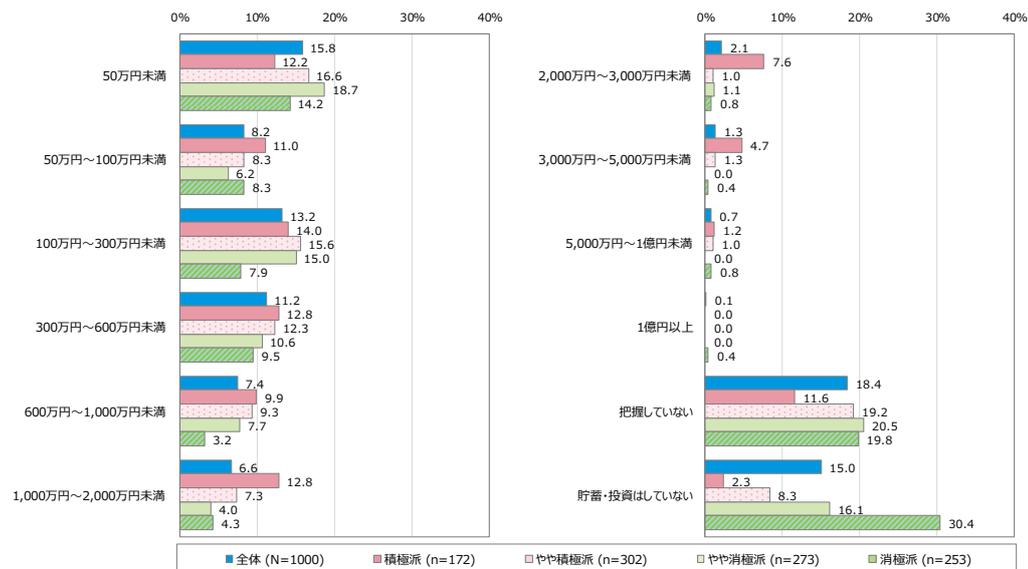
No	項目	グループ	%
1	新聞・雑誌やテレビ、インターネットなどで、経済に関するニュースや貯蓄・投資の情報を積極的に見たり調べたりする	Q8「はい」~「どちらかといえばはい」の回答数	25.3
2	よい金融商品・サービスがあれば積極的に利用を考える		
3	金融商品については、他人より詳しくと思う		
4	多少のリスクがあっても、収益性の高い貯蓄・投資商品を利用したい		
5	資産運用について関心があり、NISAやDeCoの仕組みを理解している		
6	将来的な人生設計や老後の備えを含め、資金計画について専門家に相談してみたい		
7	貯蓄や投資、保険などの金融商品の仕組みや利用方法について、もっとよく知りたいと思う		
8	家計の収入と支出を把握し、計画を立て適切な家計管理ができる		

＜調査結果の詳細＞

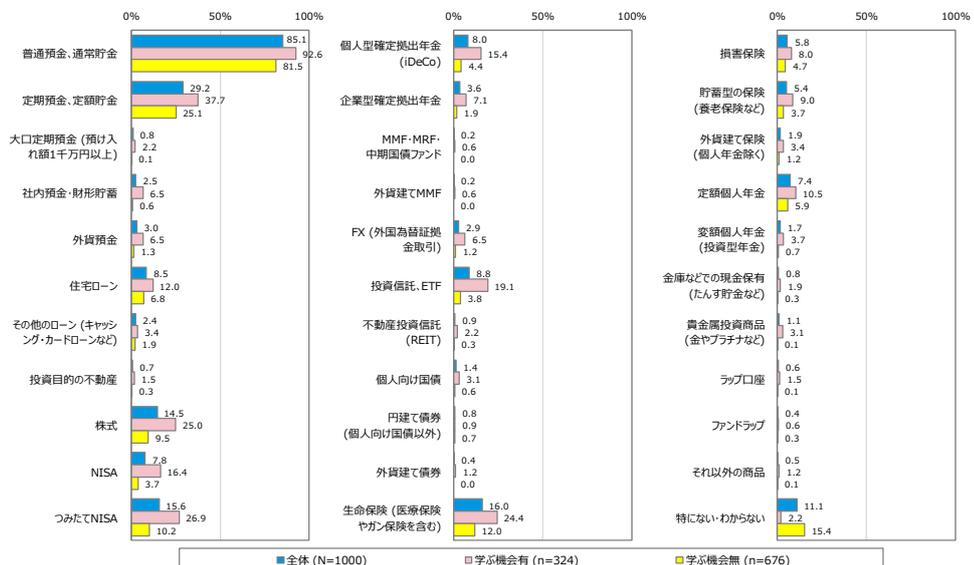
Q1. 昨今のコロナ禍や物価上昇の中で、家計管理や資産運用において、実際にどのような行動をとっていますか。



Q2. あなたの世帯での現在の貯蓄・投資の総額はいくらくらいですか。普通預金や株式、投資信託なども含めてお考えください。

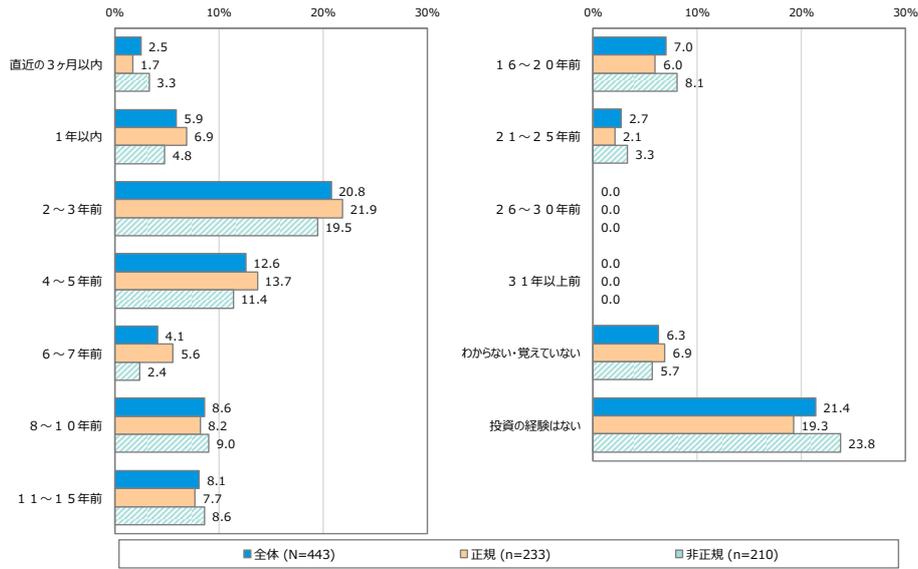


Q3. あなたの世帯で、現在お持ちの投資・金融商品をお答えください。



Q4.あなたが投資（※）を始めたのはいつですか。

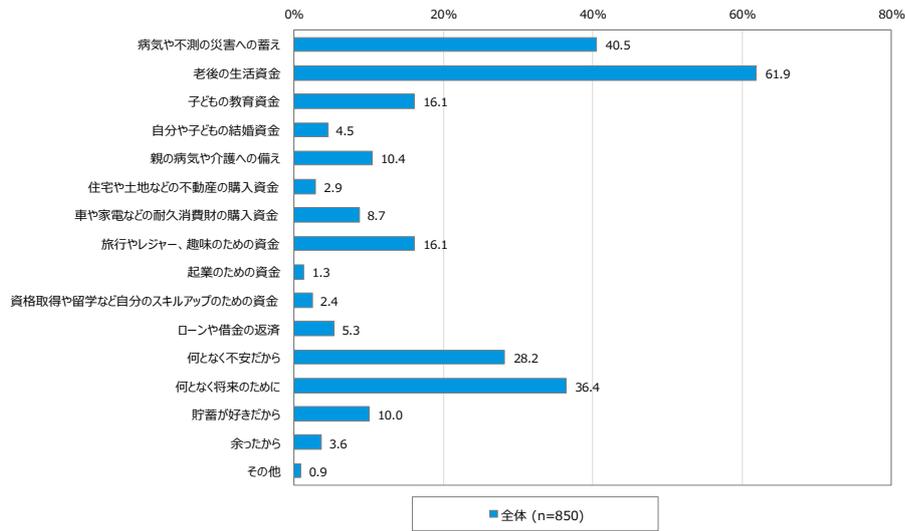
※株式、投資信託、外貨預金、債券、個人年金保険などのリスク性商品の購入



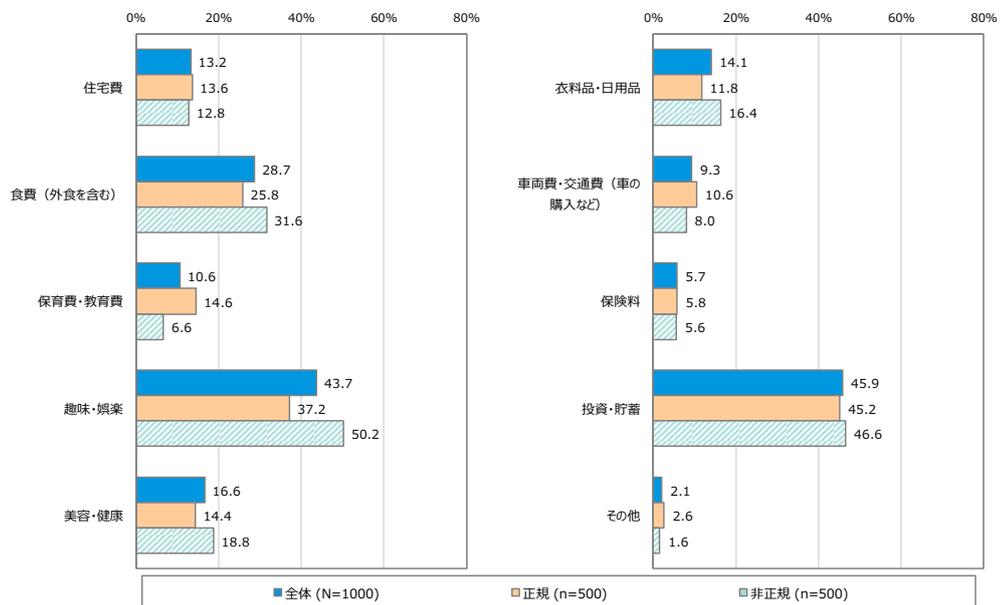
*1 投資商品とは、Q3選択肢の下記以外の商品を指す。

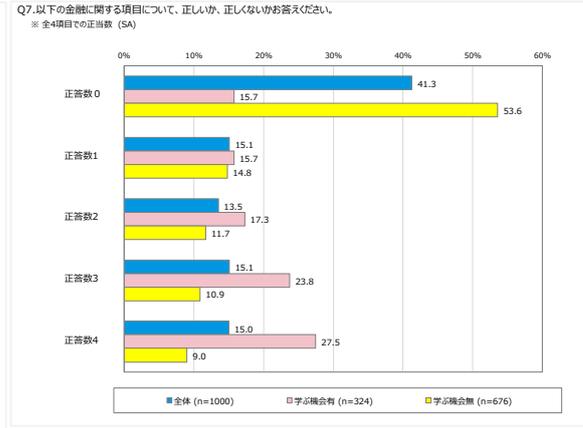
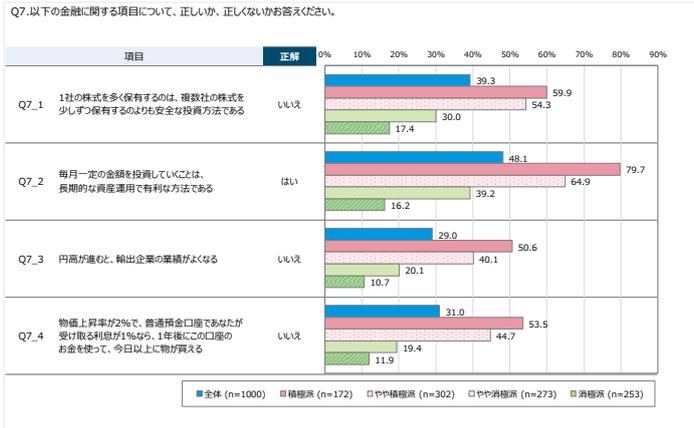
普通預金、通常貯金／定期預金、定額貯金／大口定期預金（預け入れ額1,000万円以上）／社内預金・財形貯蓄／住宅ローン／その他のローン（キャッシング・カードローンなど）

Q5.現在の貯蓄や投資の目的や理由は何か。

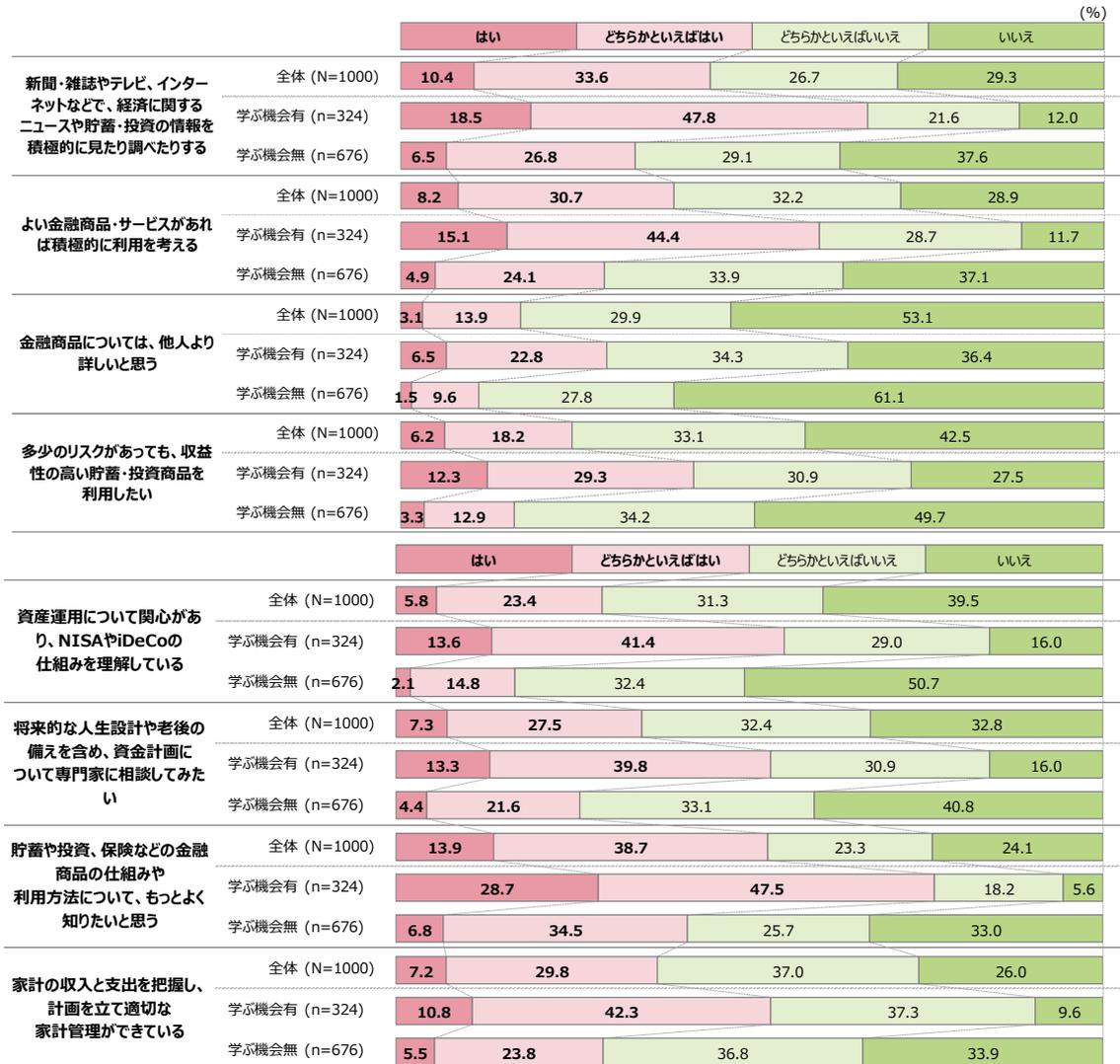


Q6.今後、どのようなお金の使い道を増やしていきたいですか。世帯全体でお答えください。



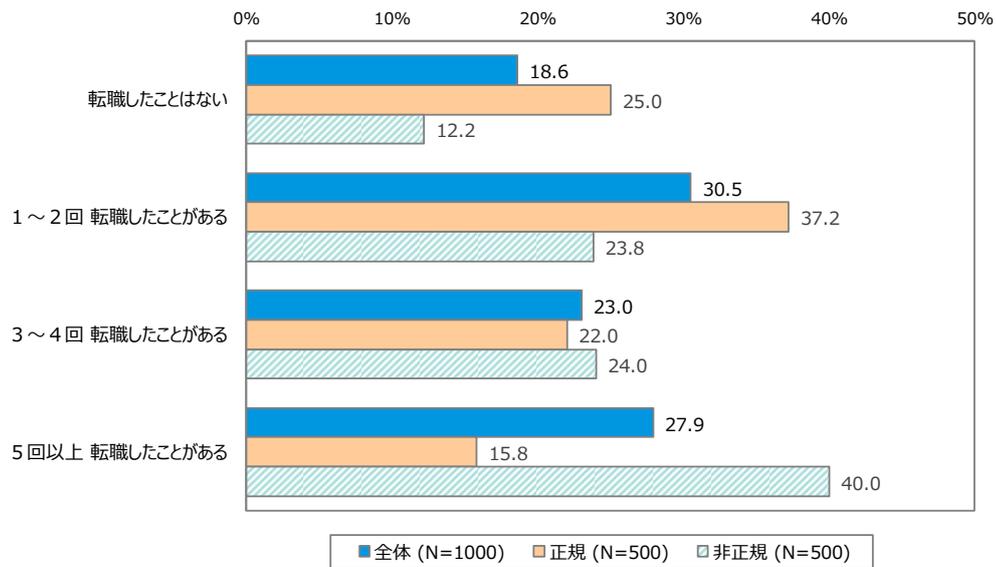


Q8.以下について、あなたご自身にあてはまると感じるものを、それぞれ「はい」～「いいえ」でお答えください。

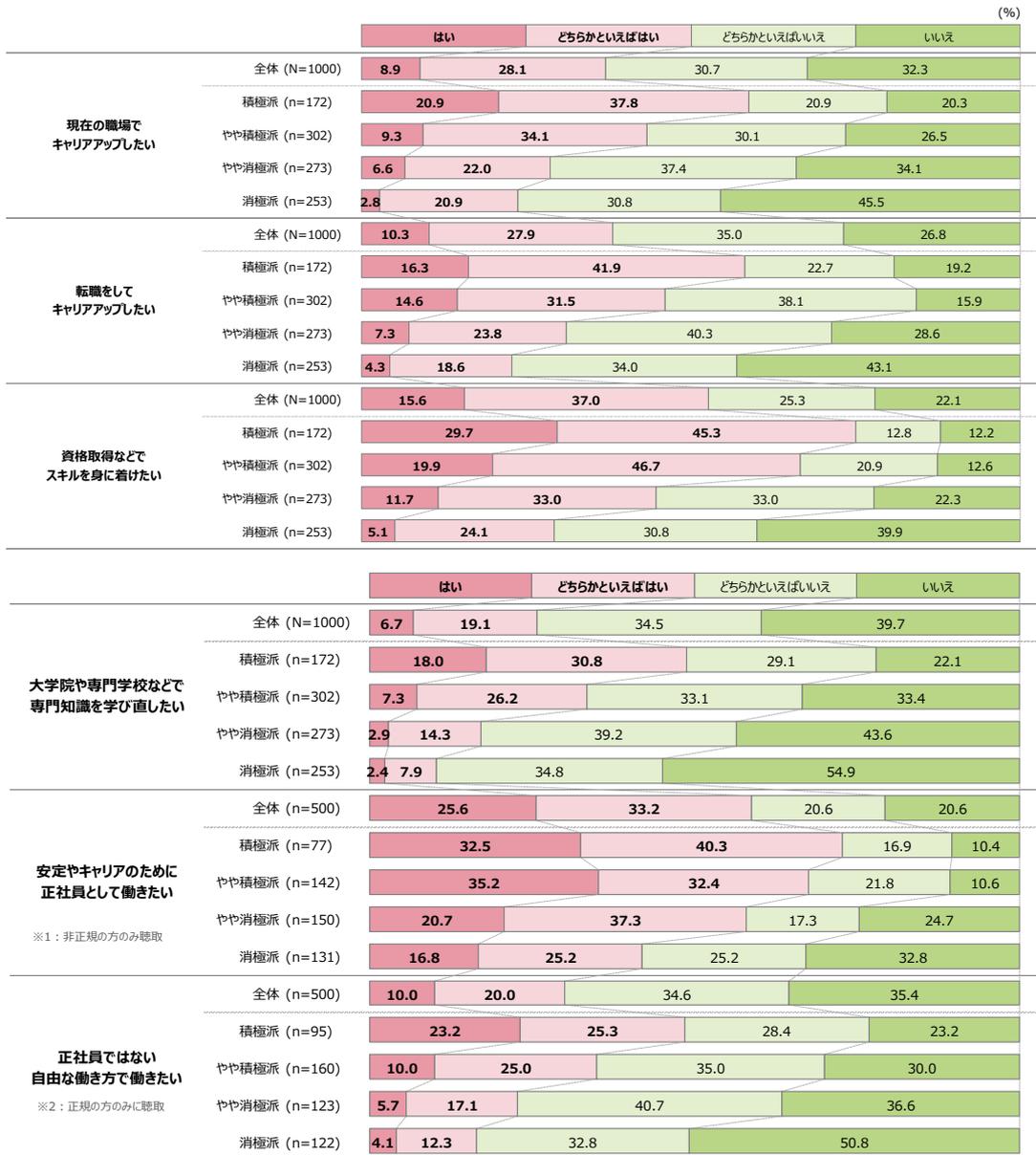


※グラフ内 0.0 は非表示

Q9.あなたはこれまで転職を経験したことがありますか。

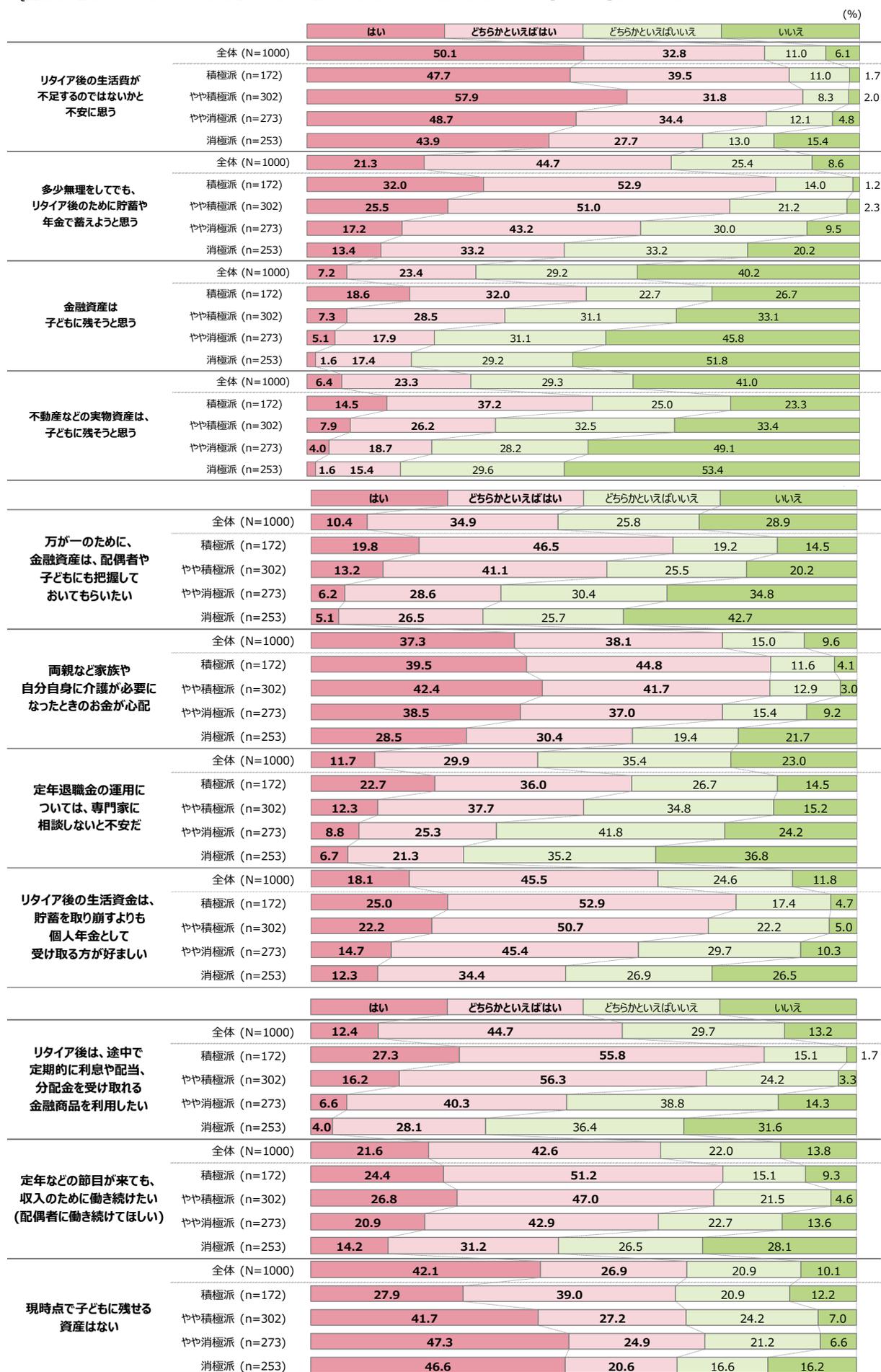


Q10.今後、あなたご自身の仕事やキャリアについて、どのようにお考えですか。それぞれ「はい」～「いいえ」でお答えください。



グラフ内 0.0 は非表示

Q11.あなた自身のリタイア後のセカンドライフについてどのようにお考えですか。あてはまるものを、それぞれ「はい」～「いいえ」でお答えください。



※グラフ内 0.0 は非表示